



## 「J. M. ケインズ著の一節にみる 拙著理念・哲学との整合性」

SAM日本チャプター理事・広島支部長  
(株)ロジタント 代表取締役

吉田 祐 起



拙著「トラックドライバー帝王学のすすめ」を読んでもくださった広島支部の武田忠征さんが言ってくださいました。「…吉田さんが本書で貫いている理念や哲学は、J. M. ケインズが著書で書いている一節に合致しますね…」と。安岡正篤著「活学としての東洋思想」に出てくる一節です。「あのケインズもそうです。ケインズの絶筆『わが若き日の信念』の中で、われわれにはIt is much more important how to be rather than how to do. 如何になすべきかということよりは如何にあるべきかということのほうが大事だと言っている…」がそれです。

凝り性の私はこの原書My Early Beliefsをインターネットで探し求めました。半世紀前の「古書」で僅か106頁ですが、ン万円ものでした。と、どうでしょう、肝心の一節が無いのです。安岡大先生のことですので、ケインズが別の著書で書いていたものを間違っ引用されたのでは…と思いながら、(財)郷学研究所 安岡正篤記念館に問い合わせしました。荒井 桂副理事長さんから丁寧なご返事があり、その誤記載(安岡先生の錯覚)が確認され、同所として今後調査するということ。

ごく最近Googleでその一節の前にKeynesと打ち込んで検索したところ、三つの書籍がトップに表示されました。その原書を(今度は図書館で)手にして確認中です。もし出所の確認が出来たら、草葉の陰で安岡先生が「私の思い違い。そりゃ、ご苦労さんでした」と言ってくださるでしょう。

ともあれ、この言葉に強く共感した私は様々の講演活動に活用しています。私の持論である「ホンモノのドライバー(人間)教育は『skill(運転技術)』でなく、『will(心がけ)』にある」としているからです。ケインズのこの言葉と私の著書の理念・哲学は同質のものと確信します。

ドライバー教育を例にすれば次の如くなるでしょう。how to do⇒how to drive (well)⇒運転上手になる⇒(skill)に対してhow to be⇒how to be a good driver⇒良き運転者になる⇒(will)です。この論理は全ての行為に当てはまります。社会問題になっているドライバーの飲酒運転防止然り、かの拝金主義と批判されている人達にはhow to make moneyよりhow to be richが大事です。

折しも、平成18年度交通安全スローガン(内閣総理大臣賞/運転者・同乗者向け)が発表されました。曰く「思いやる 心ひとつで 事故はゼロ」。「思いやる」も「心ひとつで」もhow to be。ホンモノ思考性がこんなところにも芽生えはじめたことは喜ばしい限りです。

how to beへの再認識が求められる所以ですが、そうしたことを教える人物が少なくなりました。「人生の師」と称すべき先輩格・年配者で、勇気と情熱をもってそうしたことを提言する人達の不在が気になります。家庭や学校教育の場がそれであるべきですが、悲しいかな現状は深刻です。とすれば信賞必罰の職場こそが人間教育の絶好の場であると考えます。満74歳の私にとって、この分野への助言活動は天が与え給うた役割の一つであると感じる昨今です。